

5年連続**全国1位**の

リサイクル率を達成！

環境省が今年3月に発表した、平成22年度の一般廃棄物の排出及び処理状況の調査結果によると、全国の市町村の中で、本町のリサイクル率が80.7%と5年連続で一位を達成しました。

本町は、埋立処分場の延命化と平成9年4月の容器包装リサイクル法の施行に伴い、平成10年9月に資源ごみの分別回収をスタートしました。

分別は、空きビン、ペットボトル、空き缶の3種類にはじまり、その後、段階的に拡大して現在の28品目に広がりました。

分別を開始するまで、すべてのごみは埋立処分場に埋められており、分別を開始した平成10年度一年間の一般廃棄物処分量は、4382トンでした。

これまでの取り組みにより昨年の埋立処分量は年間724トンまで減少し、埋立処分場の延命化に大きく貢献しています。



5年連続で日本一のごみリサイクル率を達成できたことは、町民の皆様のご理解と自治公民館や衛生自治会を中心とした立ち会いによる分別指導のおかげです。

『混ぜればごみ。分ければ資源！』を合言葉に引き続きご協力をお願いいたします。

＝住民環境課 環境対策係＝

リサイクル活動で変わる 地域コミュニケーション

分別収集は、ごみを少なくするだけでなく、別の効果も生み出しています。

ひとつは、ごみの収集場が井戸端会議の場所になったことです。

収集場で始まる住民同士の会話は、様々な分野におよび地域のコミュニケーションを深める手助けになっています。

ふたつめは、高齢者の安否確認や一人暮らしの人への声掛けの場になったことです。

「○○さんしばらく見ないわね。体調でも悪いのかしら」と一人暮らしの人や高齢者を訪ねることで、福祉的な役割も果たしています。

こうしたごみの分別収集の取り組みから、現代社会において希薄化しているといわれる地域コミュニティが活発になるという副産物が生まれています。

地域教育、地域防災、地域医療など様々な問題を解決するために、地域のつながりの重要性が今まさに見直されつつあります。

